

復興は健康から

いわて東北M・Mの取り組み

⑥

前回に引き続き、県内被災地で始まった特定健診会場における東北メデイカル・メガバンク事業の一環として岩手医科大学いわて東北メデイカル・メガバンク機構が行う地域住民コホート調査について報告をする。

まず「けんしん」には二つあることを日ごろ意識されているだろうか。一つは「検診」、もう一つは「健診」である。いずれもご存知のとおり、自分自身の健康状態を振り返る貴重な機会である。

健診(検診)とは？

一方で「健診」は、特定健診、妊産婦健診、乳幼児健診、学校健診という使われ方をしており、

自分自身振り返る機会に

健診を機に、より健康な毎日を

ヒトの「ある部分」だけを診て、異常の有無をふるい分けするものではない。その人の生活背景や経験をもふまえて全体的にとらえ、最終的に今の生活も認めた上でセルフケア(これからの生活のあり方)を促していくことを目的としている。

人とのつながりの変化により「未来」であることを繰り返して伝え、震災による健康面への影響をふまえ、自分自身を大切にすることを一つとしていた

「自覚症状がない」「健康面に自信がある」「かかりつけ医がいる」といったさまざまな背景の違い

そういった意味でも今回、気仙地域で行われる特定健診会場でのいわて東北メデイカル・メガバンク機構による健康調査事業は、自分自身を振り返る機会として積極的に活用いただきたい。震災前からの生活もベースに置きながらも、震災による生活環境の変化、人と

いはあるが、例年、このような理由で健診を受けていなかったとすれば、こういう方こそ、ぜひ今回の機会を有効に活用していただきたい。現在の病気の有無にかかわらず受けることができる。野田村や普代村においても、お一人おひとりの健康あつての「復興」である。

通じて、気仙全体の元気につながるっていくよう私たちも活動していきたいと考えている。(佐々木亮平岩手医科大学いわて東北メデイカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門地域住民コホート分野特命助教)



健診会場で行われた事業説明にも高い関心
—野田村